

禮術兩翼之卷

犬
追物
日記
之部

和装本

ケ 5

44

37





大坪本流西翼之卷

大追物 日記之部

春生軒齋藤定易撰

日記付様ハ文臺ノ上ニ鳥子ノ紙ヲ重子テ閉テ
其所目際ニ大追物手組ノ事ト真ニ書ニ扱射
手ノ官途二人宛双テ書少ニ簡ヲ置テ未ニ檢見
呼次ノ官途ヲ書也但檢見ヲ上ニ呼次ヲ下ニ書肩ニ
檢見呼次ト肩書ヲスヘニ射手ノ官途ノ下ヨリ矢
數ニ星ヲ付也勿論日記ノ真ニニ年月日真ニ

今

書へし

同本式三手之犬追物日記ハ一手宛閉タル鳥子
紙一枚ニテ上午ノ方ヲ書切ヤウニ二枚目ノ
紙ニテ中手ヲ付仕廻又三枚目ノ紙ニテ
下手ヲ付ル心得肝要也又トハ犬追物射
手組之事ト書其下ニ上午ト書次ノ日記ヨ
リ中手下手ト書也亦二手犬ノ時ハ勿論
上手下午ハカリ也三手ノ時ハ射手ノ數

十二騎宛三十六騎也二手ノ時ハ射手ノ數二十
四騎也一手ノ時ハ射手ノ數十二騎也但檢見
呼次ハ外也内ニ一手犬ナトノ時ハ射
手ノ中ヨリ若輩ヲ一騎出シテ呼次ヲ致
サスルコトモアリ又切者ナル射手ヨリ
檢見ヲ勒ムルコトモアリ是ヲ射手檢見
トモ云也

二手三手犬追物日記之事

上手犬追物手組之事

射手各字 十足付八只五十足
如例式

檢見 呼次如常

年月日

下手

トキ有ニシテ犬追物トアル中程ヨリ書ヘシ但
犬追物手組之事ト書ベカラス

射手各字
如例 十足付上手同断

檢見 呼次如常

年月日

三手犬之時日記事

十二犬追物手組事

射手
如常 十足付事五十足

檢見 呼次如常

中手ト書ヘシ犬追物手組事トアルカラス

射手
如常 十足付同前

檢見 呼次同前

下手 同前

射手
如常 十足付同前

檢見 呼次同前

日記付様之事但ニ三手居替ル時日記也

先十足付事 何レノ日記ニモ唯五十足マテ
書ヘシ次ノ書ヤウモ先上手ノ日記ヲ披

キテ常ノ如ク付ヘシ扱十足果テ中手
ノ扱奇ル時中手ノ日記ノ取シ上手ノ
日記ノ上へ重子テ亦十足シ付ヘシ中
手十足果テ下手奇スル時下手ノ
日記ノ上ニ重子テ十足付ヘシ何レモ三手
ニ十足サ足三十足ト呼ヘシ百足ト呼テ
ノ後ノ十足目ヲハ唯十足トハカリ呼
テ廿三十四十ト呼テ五十足ニテハタス

ヘシニ手犬ノ時モ日記ノ次第右同
前也口訣アリ

四騎犬追物日記之事

小山新左衛門尉朝長 氏家太郎

年号 甲乙子

駿河二郎恭村 横溝六郎

年月日

檢見三浦駿河前司義村 申次嶋津三郎兵衛尉忠義

如件月ト云字ト双テ書ヘシ

右之犬追物日記ハ後堀河院ノ御宇貞應
元年二月六日鎌倉御所南庭ニ於テ犬
追物アリ 若君御覽アリ 讃岐中將藤
原實雅卿モ入與アリ 北条陸奥守峯時
足利前武藏守義氏等各列參其外在鎌
倉ノ小太名群參シテ見物ス犬二十足ヲ
出ス射手四騎也小山新左衛門尉朝長氏

家太郎駿河二郎峯村横溝六郎也相互
ニ勝負シ争ヘキヨシ仰出サル、ニ依テ
名矢數シ争中シ現サントスル所面、五
足宛射之初メ十足ハ一足宛ナルヘシ次
ハ十足ハ毛付シナシ其全シ付テ仰出
サル人々ノ矢皆中ル後ノ十足ノ節
ハ射手次第ニ犬ヲ望テ其丈ヲ給ハ
ルヘシト仰ニヨリテ又中シ争ニ四騎

トモニ思フ犬シ相違ナシ等分ニ射夕
リケル誠ニ希代ノ業跡敷儀也ト諸
人稱羨ス三浦駿河前司義村是シ檢見
セシム嶋津三郎兵衛尉忠義是シ申次ト東
鑑ニモ見ヘタリ是シ四騎犬追物ノ初メ
トスル者也

六騎犬追物日記

六騎犬追物ハ貞應三年二月十日鎌倉

ノ御坪ノ内ニテ將軍家犬追物御覽ア
リ北条前陸奥守義時宰相公羽林家ヨ
リ犬十二疋進セラル此時ノ射手六騎
也弓手及ヲ初メニ調ヘ馬手及シ終
ニ記ス者ナリ是ヲ六騎犬追物ノ古
實トスル者也

六騎犬追物日記

五

六

檢見

呼次

年号月日

同寛喜二年二月十九日鎌倉將軍家由比
 濱ニ出給テ六十疋ノ犬追物アリ内檢見
 八駿河前司白直垂夏毛
行騰黒毛馬外檢見下河邊左衛

門尉皮振直垂夏毛
行騰黒毛馬射手都合十二人也是ノ内外之檢見ノ故
 實トスル者也

三手六騎犬追物日記

三手六騎犬追物者後深草院ノ御宇宝治元年二月廿日
 鎌倉將軍家濱出船ノ儀アリテ兼而由井浦ニ棧
 敷シ攝ヘ犬追物御覽其時ノ三手六騎犬追物ノ
 日記左ニ見スナリ

上手

北条六郎

若狭前司

上野十郎

薩摩七郎

遠江六郎

小笠原余市

中手

武藏六郎

武田五郎三郎

駿河五郎左衛門尉

佐々木壹岐前司

千葉二郎

城六郎

下手

陸奥掃部助

相模八郎

三浦式部大夫

大隅太郎左衛門尉

小太夫判官

駿河四郎式部大夫

檢見

呼次

宝治元年二月廿三日

後圓融院ノ御宇室町家將軍義満公永和二年四月
廿八日御犬始之日記左ニ見ス也

大追物御手組事

御十一足

佐々木五郎一足

一色兵部少輔七足

畠山右馬頭七足

畠山左近將監十足

細川右馬助十三足

佐々木郎兵衛尉三足

畠山右衛門佐六足

畠山三郎十六足

今川上総次十足

檢見

呼次

小笠原備前守

朝日三郎

永和二年四月廿八日

同義滿公和泉坂御犬追物日記左見之也

犬追物御手組事

御十三足

兵部少輔七足

大内左京權大夫一足

大内伊勢守

右京大夫十二足

管領七足

大内新次七足

上野民部大輔十足

朝日因幡守二足

由宇新左衛門尉五足

山名宮内少輔七正

勘解由左衛門尉七三正

檢見

呼次

小笠原備前次郎

嶋田弥三郎

明德四年十月十九日

同義滿公明德四年十月廿一日和泉坂御犬
追物日記左二見又也

同義滿公御手組事

御廿管領三正

右京大夫

甲斐八郎一正

兵部少輔

由宇新左衛門尉三正

朝日因幡守三正

細川五郎五正

山名宮内少輔九正

大内左京權大夫六正

勘解由左衛門尉十五正

上野民部太輔三正

檢見

喚次

小笠原備前次郎

嶋田弥三郎

明德四年十月廿一日

後龜山院ノ御宇應永二年正月七日義滿公和泉坂馬場
三ノ八騎犬追物上覽ノ日記左ニ見ス也

犬追物手組事

細川讚岐守十九足

細川下野守七足

赤松彦次郎三足

赤松播磨守六足

細河右馬助十五足

小笠原民部少輔六足

富山孫三郎五足

富中務輔九足

檢見

喚次

朝日因幡守

細川五郎

應永二年正月七日

後花園院ノ御宇將軍家義政公ノ御代文安二
年十二月廿三日吉良治部太輔宅ニ於テ九騎
犬追物アリ其時ノ日記ハ赤松入道九騎犬追
物之日記ヲ以テ調ヘテ義政公ハ上覽ニ入タレ
ト云ク兩ヤウノ古實左ニ記也

九騎犬追物日記 赤松入道

三
++++
++++
++++

一
++++
++++
++++

++++
++++
++++

五
++++
++++
++++

++++
++++
++++

++++
++++
++++

二
++++
++++
++++

++++
++++
++++

四
++++
++++
++++

檢見 肩書

嘆次 肩書

年号月日

九騎大追物手組事

伊勢兵庫助 十足

吉良治部太輔 十三足

佐竹和泉守 八足

小笠原備前入道十是

宮十是彦三郎九是

陶山又次郎十是

小笠原刑部大輔九是

細川右馬助十是

伊勢因幡守十是

檢見

喚次

小笠原民部少輔

飯尾善左衛門尉

文安二年十二月廿三日

右者吉良治部大輔射子ヲ撰タル工ニ鎌倉
四騎毛付ノ犬ニモ劣サルホトノ儀也日記モ
古例ヲ以テ末代ノ鑑ニ調タル工ハ其
品面白キ事也

後土御門院寛正六年八月廿二日將軍義政公
犬追物御見物ノ夕メニ細川右京大夫勝
元ノ馬場ノ棧敷ハ渡御アリ御舎弟今

出川義視 御御同道アリ百足犬追物アリ
其日記ハ引合ノ紙ヲ以テ伊勢七郎左衛門
是ヲ調ルナリ再并ハ伊勢六郎勤之
云々

犬追物手組事

管領富山尾張守 是

斯波治部太輔 是

畠山左衛門佐 是

土岐美濃守 是

一色兵部少輔 是

大内伊勢守 是

山名彈正少弼 是

伊勢備中 是

細川淡路守 是

伊勢兵庫助 是

細川右京大夫 是

細川讚岐守 是

檢見 小笠原備前守

喚次 小笠原民部少輔

犬百足終テ右之射手十二人檢見喚次西人
トモニ棧敷へ召ニ依テ參ル皆腰指ヲ取行
騰ハ着レナカラ參ル將軍先細川右京大
夫ニ御意アリテ其後皆々ニ祢美アリ

赤犬百疋真行アルヘレト仰アリテ次リ
手組シ定ムル也

手組事

畠山尾張守是

細川讚岐守是

山名彈正是

大内伊勢守是

細川下野入道是

伊勢備中守是

土岐美濃守是

伊勢兵庫助是

小笠原民部少輔是

小笠原美濃守是

山名右衛門督入道是

畠山左衛門佐是

細川右京大夫

小笠原備前守

寛正六年八月廿二日

同後土御門院ノ御宇延徳二年七月廿七日
義政公諏訪神事ノ為ニ北白河ノ馬場ニ於
テ犬追物アリ掛サセラル也釣ラニツ
宛シ細繩ヲ三疋ハカリニシテ稲穂ヲ
ニシヘシ以テ結合テ繩ノ中ホトニ繩

ト同ク結テ其西方ヨリ奠ノ頭ヘテヨリ
口ヘ引通シテニツシ腹合ニ執キテ繩ノ
末ヲ引揃テ結ヒテ日記付ノ在之
ノ左ノ柱ニ竹釘シニツオテ掛ラレケ
ル也是尊氏公ノ諏訪神事笠懸ノ古實
ニヨルト云ヘリ此時ハ二騎ノ檢見也
犬數廿足宛ニテ内外替リテ射テラ
セラル也始ノ内檢見ハ大内伊勢守

外ハ小笠原備前守廿足ト呼ハリテ備前
守内檢見外檢見ハ伊勢守勤之
神事犬追物手組

三

一

四

五

七

檢見内外

延徳二年七月廿七日

謹上

犬追物ノ日記一三四ハ古モ今モ替ルナシ
甲乙付ハ射手ノ名ノ通ヨリ書始ム月
付ハ上ノ名ト下ノ名ノ間ヨリ書者也

六

檢見外内

後柏原院ノ御宇義政公永正十七年八
月一日ノ日記左ニアリ

犬追物手組事

和永正十七年手掛ナトノ時ハ奥ニハ書スレテ
加筆書タル吉園次等モ在矣ニ書ヘシ

武田伊豆守外ナリ上野兵部少輔

薬師寺寺石見守

大内伊勢守寺小笠原又六

檢見

喚次

細川右京大夫

伊勢右京亮

永正十七歲八月一日

是ヨリ多キ時モ次第如此大追物ト檢見ト年
号通り也喚次ノ役トクシテ二騎ノ檢見
ノ時モ喚次ト書ヘシ

犬追物手組事

細川右京大夫

細川右馬頭

大内伊勢守 小笠原又六

上野兵部少輔

藥師寺与一

武田伊豆守

檢見

武田大膳大夫道

喚次

寺町石見守

永正十七年九月八日

右者内外ノ檢見ノ時ノ書掾也

二騎檢見ノ時ハ例式ノ如シ内檢見ヲ書テ
奥ニ置テ外檢見ヲ書也次喚次十ヶレトモ
常ノ如ク下ニ喚次卜書者也

檢見

喚次

年号月日

犬追物手組事

細川右京大夫

大内伊勢守

武田伊豆守

武田大膳大夫

檢見

細川右京大夫

右者射手檢見ノ時 矢代ノ一番

長塩弥五郎

ノ人シ本檢見ニスル也始ノ十足ノ
檢見ノ名字ヲ書ヘシ後ノ檢見
シハ書ヘカラス是シテ射手檢見
ノ日記ヲ見知ヘシ

犬追物御子組事

誰右京大夫ト計モ書也

當職シハ唯二字書也

管領モ如斯書也

三御

細川右京大夫

武田伊豆守

右者將軍様遊サレ一時ノ日記也此外ノ

奥ハ人数ハ書ヤウハ日記ノ次第然

ヘシ紙ハ引合ニテモ鳥子紙又ハ杉原

紙ニテモ書ト知ヘシ

日記ハ惣シテ十二騎カ本式也射手

不足セハハ騎十騎ニテモ手掛ナトハ
 射ヘシ其時モ日記ノ手組ハ同事成ヘ
 シ若又射手カケテ或九騎十騎十一
 騎ナトノ時ハ日記ノ調ヘヤウニ口
 訣有ヘシ但シ内々ノ犬追物ナラハ
 末ヲ一騎開テ置ヘシ 十二騎ノ日
 記大概如此也料紙ハ杉原吉右末今大奉書
ノ紙ニ似名物ト云フ
 三三三三三十端有ヘシ五分計端ヲ置テ如此數ヲスヘシ

二 犬追物手組事 闊次第故實也

一 卍足或何足

三

五

三

報檢見ノ字ハ又シテ又ハ喚次ノ字ニ
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 年号月日 上ノノ 靴又給字ノ十五番
 大概如此犬追物ト檢見ト年号トノ字及シ
 同通ニ書候也射手ノ名字官途又受領等
 名可書加之次貴人シハ印ニテ受領ニ
 テモ計書ヘシ内々ノ犬追物ニハ殿ノ字

二
 三
 四

有ヘシ公方様ノ御成ナトノ犬ニハ殿ノ文
字ハ除也同料紙引合タルヘシ次上下ノ
射手ノ間ノ間ホトハ例式タルヘシ但シ
末ハ次第ニ少心持シシテ廣ク開テ書候也
子細口訣ニアリ上下ノ横又名字ト十足善
トノ間如何ニモ同程成ヘシ

公方様犬追物遊サレ初ナトノ御手組日記
ノ時ハ御ノ字ヲ入ル也又惣ノ射手ノ名

ヨリ一字上ニ御ト計真字ニ調ル者也
九騎十一騎ナトノ日記シ書ニハ例式ニ
ハ十一騎ノ時ハ一騎不足シテ書ヘシ然
トモ四騎ノ五騎メハ十二騎ノ時ノ如ク
其兩ヲ賞翫ノニハ書ヘカラス

日記上ニ初中後ト書事アリ是ハ三百
足犬ナト有時ノ儀也又千足犬追物ノ
日記ニハ唯一二三四五六七八九十如此アル

へシト小笠原備前守改清モ家ニ傳夕
ルト申サレケルト云へリ

朝犬夕犬ノ時ノ日記ハ朝犬百足アラハ
始ト書へシ又夕ニ二百足アラハ始ト書へ
シ又夕ニ二百足アラハ始ト書へシ中ト
書次ノ百足シ後ト書へキ也人毎ニ
朝夕ト書事ハ心得カタシ唯初中後
ト有へキ由小笠原民部少輔モ云レシナリ

足犬追物ノ時ハ本日日記ノ外ニ別料

紙ニ矢ノ外レヲ付余ハ矢ノモレ也也墓目ナ

ト取落タルモ外シタル夕也日記ニハ

外レト付ル也

落馬モ日記ニハ犬四足外シタル分ニ付也

故ニ射手ノ足犬追物落馬ノ法式ハ知ルへキ事也

手札之事

手札寸法豎八寸横一尺二寸原サ五分也朱

漆ニテ塗ル也緒ハ付ヘカラス大方ハ鑑板
ト世ニ云物ノ如シ日記取ニ置也又射手
小屋ニモ置テ扣ヲ書付也是ハ日記ト合
見ントノ事也惣別儀式晴ノ犬ノ時ハ手
札ハ用サル也内々ノ犬又ハ勝負犬ナトノ
時ハカリ手掛ナト打續繁キ様ナル時
付ヘシ犬數十足宛双テ書也書様例式ノ日
記ノ如シ端奥ノ事ハ其内ニ仕合スヘシ次檢

見喚次年号ノ書ヤウモ例式ノ如シ但シ
犬追物手組事文明ニ如此書事モアリト
多賀豊後守モ云レシナリ手札ニ書留テ
其後本日記ニ寫ス者也紙ハ前ニ記ス如
ク鳥子紙引合紙杉原紙也

當流宗師
日本武尊
迎來流
貞純親王

鹿嶋流

八幡太郎

義家

六條判官

為義

湯山入道中原

玄性

大坪流

大坪式部大輔

廣秀

村上加賀守

永幸

齋藤備前守

国忠

齋藤安藝守

好玄

齋藤備後守

忠玄

齋藤齋宮頭

辰遠

丹列住僧了庵坊

齋藤求馬之助

辰光

大坪本流

齋藤主稅

定易

